

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第八小学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。 (※夏季休業期間の変更に伴う教育課程編成の工夫を含む)	B	・日頃より評価者の方々には、ご多忙の中、学校まで足を運んでいただく機会が多く、本校の教育理念のご理解をいただいております。児童の様子に限らず、教職員の様子についても関係者より情報をいただく機会があり、たいへんありがたく思っているところです。	A	・児童の様子や先生方の様子を見て、概ねそう感じています。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 (※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)	B	・児童間のトラブルに関しては、基本的には学級・学年で対応しています。様々なケースが発生する中、どの事案についても児童双方の保護者への連絡は欠かすことの無いように対応を行っております。特に経験の浅い若手教員については、一人で抱え込むことなく学年主任に相談する等、複数・組織的に対応し解決していく方向性を採っています。今後も保護者と連携を密にして参ります。	A	・子供同士の事故時に、関係者への連絡等、きちんと行われているか、見直していただきたい。 ・昨今の痛ましい事故原因の一つにいじめが挙げられる。本当に早期発見及び情報等は大事であると感じた。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	・学力向上については、各教職員が児童一人一人に向き合い、特に配慮を要する児童については、直接声をかける等のきめ細かい指導を行っています。教職員は児童の学習意欲を喚起し、そこから次のステップへ児童自身が上がることのできるよう、学級や学年を中心に、あたたかく見守っていきます。	A	・学年に応じた本以外にも、レベルの高い本を持って登下校する児童の姿がよく見られた。 ・保護者が児童のことで土日等に相談できるシステムがあればと思います。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	・学習面に限らず、児童のことで相談については、保護者と学級担任の間で放課後連絡を取り合っている様子が見られます。この3学期より、学校の電話に自動応答機能が付いたことにより、午後6時以降の保護者からの電話連絡については、次の日以降となりました。教職員の負担軽減策の一環であります。土日に相談を行う、ということに関しては教職員の勤務実態から、現状では難しいです。先を見通した支援心がけ、月曜日から金曜日にかけて、保護者と連絡帳等で連絡を密に取り合っており、対応にあたります。	A	・児童の様子や先生方の様子を見て、概ねそう感じています。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	・今年度は比較的、生徒指導上困難を要するなど特筆する児童はおらず、課題を抱えた児童については、学級や学年の教職員で対応にあたっているところです。保護者との連携はもちろん、事案によっては教育委員会や子ども相談室等とも情報共有を行い、課題解決に向けて取り組んで参ります。	A	・ルールを守ることが困難な児童への指導について、あらためてその難しさを感じました。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	・児童の発達段階に即した「規律ある態度」の育成については、学級や学年で歩調を合わせて指導を行っています。	A	・児童の様子や先生方の様子を見て、概ねそう感じています。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	B	・サンサンタイムや昼休みの時間に、なるべく子ども達には体を動かすよう、外遊びを奨励し、健康面の保持・増進を進めています。また毎週水曜日には、敢えてサッカーはしないように呼びかけ、他のいろいろな遊びを行っています。 ・運動の得意不得意は、児童個々によって様々ですが、「下手だから・嫌いだから」やらないということではなく、苦手なことに挑戦して、少しでも成果をあげて達成感を得られる、そのような児童の育成に努めて参ります。	A	・サッカーや縄跳びで遊ぶ姿をよく見かけることがある。 ・少しずつ児童個々にも、得意不得意が出てくると思うので、なかなか難しいと感じた。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	・本校では平成29年度より、「次代に語り継がれるレガシー創出事業」を県から委嘱を受け実施しております。アスリートやパラリンピアンを招聘し、子ども達に競技の面白さや難しさ、そこから夢に向かって努力した過程等を講話や実技を通して伝えています。これからも、子ども達のために、そのような機会を設定し、自身の夢に向かって励んでほしいところです。	A	・持久走の工夫や車椅子バスケット等の障がい者スポーツの体験学習等が行われており、児童にとって有意義であると感じた。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	・本校においては、保護者と先生の会や学校応援団「八枚のはね」、お父さん方の「103の会」や各町内会等の地域の方々との協力によって学校運営が進められていることを、授業や行事を通して実感しているところがあります。運動会の協力など、とても助かっているところがありますので、応援を要する場合には、早期連絡を徹底して参ります。	A	・行事の早期連絡等の対応をお願いしたい。 ・学級に入っただけのお手伝いを行っているためには、学校の、特に先生達の要望を聞かせてもらい、指示をいただけたらと思いました。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	・今後とも、学校と保護者・地域が密に情報交換を行い、児童にとって毎日楽しく通える、そのような学校づくりを行って参ります。	A	・教職員と保護者、関係者との連携については、進んでいると思われるが、まだまだ地域とのつながりについては今一歩かなと思います。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA~Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満